

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 まど家)

事業所番号	0673000618		
法人名	合資会社 すぎやま		
事業所名	グループホーム やまぼうし		
所在地	山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰42-1		
自己評価作成日	平成 23 年 4 月 12 日	開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域とのつながりを大切にしています。・インフルエンザやノロウイルス等の感染症がなく過ごせています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do">http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 23年 5月 25日	評価結果決定日	平成 23年 6月 14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎え、大きくひと呼吸をし「初心にかえる」ことを念頭に入れ、理念の中にある「のんびり、ゆったり、心豊かで円満に」「家族同様に利用者の存在を大切にする」等の一つ一つ紐を解かれています。利用者と共に地域で暮らしていることを再確認しながら、現状に満足することなく理念に基づいたサービスを心がけている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初より地域の中でその人らしく暮らすことを大切に思い、理念をつくっています。	入職の方には事業所理念を手渡している。日々の唱和で常に家族同様であることを共有し、利用者を通して職員の関わりが見えてくる所である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事(芸能まつり)に毎年招待されており近くのコミセンに行きます。また、町民体育館では幼稚園の運動会に毎年参加させて頂き地域の子供達とのふれあいの時間がもっています。	ホールには中学生が3日間で仕上げた手作りカレンダーが飾られ、利用者の目を喜ばせている。地域(町内会)主催の環境クリーン作戦に参加し、窓拭きに汗を流したりと、事業所側からの要望のみにならない為にも、日頃より地域に応えられるような交流関係がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めるために、認知症サポーター養成講座を地域で開催したり、家族の介護について相談にいらした方に対してホームで経験したことなどを交えながらお話させて頂くことがあります。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(奇数月の第3水曜日)に運営推進会議を定期的に関っています。ホームの活動報告や近況報告を行いながら地域の方々のご意見、感想等を頂いてサービスに結びつけています。	事業所にとってこの運営推進会議は、地域の中の一員であることを位置づけており、周囲の情報も教えてもらっている。また会議の席においては、マンネリ化することなくメンバーの声がけやひと声で繋がりができ、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも連絡や報告、相談をさせて頂いております。	当初より介護相談員を受け入れている為、利用者とは顔馴染みで親近感がある。他事業所の情報等も得られ、変化も見えてきている。担当者との連携が密で年々重度化してくる利用者の相談や経済面で困難な方への対応等で協力関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての理解のため、施設内で研修会を開き職員一人一人の意識を高めていく取り組みをしています。	身体拘束をしないケアの実践に関しては、入所時に家族等に話をしている。職員各自の意識向上を図る為に研修会があり、検討課題は、場面に応じた例をあげ(ミトンの手袋を使用しないで済む方法等)取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての新聞、書籍等を職員に紹介し、学ぶ機会をつくるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、書籍等の紹介により職員にも周知するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の反応を見ながらまた、確認しながら説明するように心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に赤いポストを設置し、面会にいらした方々より気軽に感想やご意見を頂けるようにしています。	玄関のポストには件数が殆んどなく、前年の目標達成計画に掲げた「職員間でのアンケート作成」に関しては、家族等から直接話す方が顔が見えて良いとの声が多く聞かれ、作成中止としてその都度の関わりを大切にしている。	
11		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや毎日行うユニット毎のミーティングを利用し、それぞれの意見や提案を聞けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の有無に関わらず、日頃の努力や成果は昇給や賞与に反映させています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのため研修参加を促し、希望者には勤務調整をして参加しやすい様工夫しています。	内、外部研修を出来るだけ勤務中に取り込み、職員各自の希望や内容に合った研修への配慮が見られる。参加後の意識の変化があり、今回は庄内保健所から来てもらい、手洗い指導の実施を利用者・職員共に受けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に加入している他に介護事業者研修や介護支援専門員研修への参加や医療面でも緩和ケアサポートセンターへの協力で地域リンクスタッフとなり勉強会に参加させて頂きサービスの質の向上に努めています。	地域から認知症を理解してもらう為に、地域リンクスタッフの一員となり勉強会への参加をしている。他事業所との情報交換等を中心にサービスの向上に繋げている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの話をよく聞き、受け止めるようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お困りのことや心配なこと又は、ホームに望むことを伺い不安なく入居に結びつけられるようにしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をよく聞き適切に対応しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に炊事、洗濯、掃除等を行い、昔ながらのならわし等を聞きながら楽しく作業しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの職員だけではできないことが沢山あるため、ご本人を中心に御家族の理解や協力を得た上で相談しながらケアを進めています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力を得ながら、なじみの美容室に行ったりできるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性や行動パターンを把握して入居者同士のなじみの関係づくりのお手伝いをさり気なく行っています。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されて退居となっても、その後の行き先が決まらない方には継続して相談にのり、できることがあればお手伝いしています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅での生活を御家族等に伺い、なるべく近い環境で生活できるよう配慮しています。	日々の関わりの中で、歩行やそれぞれの手伝い等を含め、昨日出来なかったが今日は出来たという満足感や家族状況の変化をその都度確認しあい共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の担当介護支援専門員と連絡を取り情報を頂いて入居後の生活の参考とさせて頂いています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	独自に準備したアセスメント表を用いて情報をまとめ把握しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者であるご本人にとってよい環境を整えるため、御家族や地域の方々等のご意見を伺いながら計画書を作成しています。	家族等や利用者自身の思いや意見を傾聴し、地域で暮らせるよう介護計画に繋いでいる。事業所を第2の家族と考え、協力医から生活に対してのアドバイス(衣食住に関して)を受けながら支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をきちんと残し情報を共有し実践しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ホーム周辺にはコミュニティーが集まっており、図書館や社会福祉協議会、コメン、体育館へ歩いて出かけることができます。諸施設のご協力を頂き時々利用させて頂いています。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>御家族の希望によりかかりつけ医を決めています。基本的には家族が通院する事になっていますが、困難な時はホームで対応する場合があります。電話やFAXや手紙で連絡をとり情報提供しています。</p>	<p>内科、歯科等の協力医や皮膚科専門医の訪問診療の実施や、かかりつけ医には日頃の生活状況等の情報提供をし、関係を築きながら安心した受診支援に繋げている。結果は通院記録やミーティング、職員同士連絡を取り合うなど情報の共有をしている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>バイタル測定を行い、日々の様子を観察し看護師に報告して指示を仰いでいます。受診が必要な時は御家族に相談したり、主治医に報告し、早期発見に努めています。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された場合には早期に退院ができるように御家族を通じて病院関係者より情報を頂いています。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合について話し合い、意向を確認しています。</p>	<p>入居時や利用者の容態変化に応じ、その都度家族等と話し合い意向を確認している。利用者・家族・関係医療機関等との馴染みの関わりの中で共有、連携を図り、チームで支える支援に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回消防署の協力を得て火災訓練や緊急時の対応(AEDの使用法等)の訓練を実施しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	警備保障会社や地域の消防団と連携、町内においても火災通報装置への登録を2名(区長さん含む)して頂いております。	スプリンクラー設置業者立会の下、隣接する法人事業所との合同訓練や更に各ユニット毎、夜間想定の実施し、反省点や確認事項等を記録に残し次の訓練へと繋げている。通報装置のみでなく、今後、地域住民との協力は不可欠と体制作りを考慮している。	未曾有の出来事と言われる東日本大震災を教訓に不測の事態に備え、日頃より繰り返しの訓練や備蓄等の見直しに留意され、今後地域住民との訓練を一緒に行なう等実践に向けた取り組みに期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない誘導や声かけを行いそれぞれの入居者にあつた対応の仕方を工夫しています。	人生の先輩として尊敬の念を抱き、その人に応じた言葉かけを心がけ、自尊心や羞恥心、プライバシーに配慮している。個人情報保護については職員採用時研修や実習生等にも充分周知を図り意識づけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をよく聞き、思いや希望を表現し易い様な雰囲気づくりを心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を知り、本人にとって無理のない生活リズムで過ごせる様支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、理美容院に出かけられるようにしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状況に応じた食事形態にし、楽しく安全に食せる様にしています。調理が得意な方や好きな方には、お手伝いをして頂いております。	一人ひとりの出来る事、得意とする力を引き出しながら食事や会話の広がりを楽しめるよう支援している。毎朝「お粥」を食し、朝食の摂取をととても大切に捉え、元気に一日を過ごす事が出来るよう工夫している。食材も全員で食べられるもの、地産地消を取り入れ風土が育んだ食を大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は協力医よりカロリーについての指導があり目安としています。嫌いな物が多い方や、摂取量の少ない方には、栄養を考え個別に補食しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところまで本人から歯磨きして頂き、不十分な所を声かけしながらお手伝いさせて頂いて口腔内をチェックしています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、個別に排尿等の間隔を把握しトイレ誘導しています。日中はなるべく布パンツで気持ちよく過ごせる様にしています。	排泄サインを早めに察知することで利用者の心身状況に不安を与えないよう個別支援を行なっている。トイレにはオリジナルの「温かいおしぼり」を備え、日頃より褥瘡予防や清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、にがり、冷水、牛乳の活用により便秘を予防しています。出にくい方だと特に廊下歩行を促したり、散歩に出かけるなど工夫をしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	予定日は決めています、本人の体調や気分等により変更する場合があります。	個人々の希望や状況を取り入れ、気持ち良く入浴出来るよう取り組んでいる。身体の変化を身逃がさない見守りと観察を行ない、職員全員で確認、共有しながら安心安全に繋げている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や自宅での状況等を勘案し、ベットにするか布団で休むかを決めています。全室個室のため不安で寝付けない方には、添い寝したりすることがあります。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を別紙で記入し、薬の内容及び副作用についても把握しています。変更時は、本人の様子の変化を細かく記録する様にしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴を参考に役割を決め、持っている力を引き出す様にしています。ボランティアさんの来所により歌の大好きな方は、一緒になって歌ったりされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、体調をみながら前庭に出てお茶を飲んだり、日向ぼっこしたりしています。地域で開催される芸能まつりに参加したり、幼稚園の運動会へお誘いを受け飴拾い競技に参加したりして地域の方々と共にふれ合う機会を増やしています。家族と定期的に外出される方もいます。	外気浴や散歩等は天候や体調に合わせて、その都度柔軟に行なっている。地域行事や運動会等へ出かけ、季節感を味わうなど外で過ごす時間を大切に、心身の活性化に繋げ支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	天気をみながら外出し買い物したり、ホーム敷地内に自動販売機を設置し小銭を使って飲み物を購入するなどを試みしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	簡単な携帯電話をお持ちの方もいますが、体調が不安定だと預かることもあります。はがきを準備し、家族と連絡を取っていることもあります。うまく住所が書けない場合は、さり気なく援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の歩く足音や戸締まりの音、話す声のトーン等を考え行動しています。光は無理に遮らず、時間の経過がわかるように配慮しています。	ホール内の音や採光等も昼光照明で雰囲気良く、外の景色も自然に眺めることができる。隣接しているテニスコートより学生たちの声に英気を感じながら心地良く、日中はほとんどの利用者が居間で一緒に過ごしている。共用空間であるトイレや浴室には各々洗濯機を置き、臭い等の衛生面に細心の注意を払い快適に過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所、好きな椅子にそれぞれ座りくつろいでいます。居室で休まれる方もいますがお茶の時には声かけしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、なじみの物が置けるようにしています。	居室には木製手作りの表札を掲げ、今までの生活の延長「自宅」の雰囲気作りやベット等の設置には身体状況や動線を考え一人ひとり工夫され、安心して過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では、手すりの位置をやや高めにし姿勢良く歩けるよう工夫しています。現在持っている機能を維持するため、できることは時間がかかっても本人にお願いするようにしています。(針仕事等)		